

使用開始日：2014.10.21

りそな・JPX日経400オープン

追加型投信 / 国内 / 株式 / インデックス型

- 本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。この目論見書により行うりそな・JPX日経400オープンの受益権の募集については、発行者であるアムンディ・ジャパン株式会社(委託会社)は、同法第5条の規定により有価証券届出書を平成25年12月26日に関東財務局長に提出しており、平成26年1月11日にその届出の効力が生じております。
- ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は下記<ファンドに関する照会先>のホームページで閲覧できます。また、本書には投資信託約款の主な内容が含まれておりますが、投資信託約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に掲載されております。
- 投資信託説明書(請求目論見書)については、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。ご請求された場合には、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。
- ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づいて組成された金融商品であり、商品内容の重大な変更を行う場合には、同法に基づき事前に受益者の意向を確認する手続き等を行います。また、ファンドの投資信託財産は、受託会社により保管されますが、信託法によって受託会社の固有財産等との分別管理等が義務付けられています。
- ファンドの販売会社、基準価額等については、下記<ファンドに関する照会先>までお問合せください。

ファンドの商品分類および属性区分

商品分類				属性区分				
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	補足分類	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	対象 インデックス
追加型	国内	株式	インデックス型	その他資産 (投資信託証券 (株式一般))	年1回	日本	ファミリー ファンド	その他 (JPX日経 インデックス400 (配当込み))

商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご覧ください。

■ 委託会社 [ファンドの運用の指図を行う者]
アムンディ・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第350号
設立年月日：1971年11月22日
資本金：12億円(2014年3月末現在)
運用する投資信託財産の合計純資産総額：
2兆4,077億円(2014年7月末現在)

■ 受託会社 [ファンドの財産の保管および管理を行う者]
株式会社りそな銀行
(再信託受託会社：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
■ <ファンドに関する照会先>

アムンディ・ジャパン株式会社

お客様サポートライン 0120-202-900(フリーダイヤル)
受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで
ホームページアドレス：<http://www.amundi.co.jp>

ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

この投資信託は、JPX日経インデックス400 (配当込み) と連動する投資成果を目標として運用を行います。

ファンドの特色

① JPX日経インデックス400 (配当込み) に連動する投資成果をめざします。

◆JPX日経インデックス400 (配当込み) が上昇する場合には基準価額も連動して同程度の比率で上昇し、同指数が下落する場合には基準価額も連動して同程度の比率で下落することを目標とします。ただし、ファンドの基準価額がJPX日経インデックス400 (配当込み) の動きと乖離することがあります。

② JPX日経インデックス400 (配当込み) と連動する投資成果を目標として運用する「アムンディ・JPX日経400オープンマザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます) を主要投資対象とします。

◆主として、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融商品取引所の上場株式に投資します。なお、株式等に直接投資することもあります。

③ 株式の組入比率は原則として高位に保ちます。

◆株式の実質投資割合は原則100%程度とします。

JPX日経インデックス400とは

JPX日経インデックス400(略称:JPX日経400)とは、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される新しい株価指数です。

- JPX日経インデックス400は、東京証券取引所上場株式(市場第一部、市場第二部、マザーズ、JASDAQ)の中から、時価総額、売買代金、資本効率の高さを示すROE(自己資本利益率)等を基に、選定された銘柄を算出対象とします。
- JPX日経インデックス400の算出対象数は、原則として400銘柄です。ただし、当銘柄数は、8月の定期入替時において適用され、その後の上場廃止等によって株価指数の算出対象数は、一時的に400銘柄数を下回ることがあります。
- 定期入替は年に1回(8月)行います。
- 起算日は2013年8月30日で、基準値は10,000です。

- 「JPX日経インデックス400」は、株式会社日本取引所グループおよび株式会社東京証券取引所(以下、総称して「JPXグループ」といいます)ならびに株式会社日本経済新聞社(以下、「日経」といいます)によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、JPXグループおよび日経は、「JPX日経インデックス400」自体および「JPX日経インデックス400」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有します。
- 「JPX日経インデックス400」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、すべてJPXグループおよび日経に帰属します。
- 「りそな・JPX日経400オープン」は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、JPXグループおよび日経は、その運用および「りそな・JPX日経400オープン」の取引に関して、一切の責任を負いません。
- JPXグループおよび日経は、「JPX日経インデックス400」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して責任を負いません。
- JPXグループおよび日経は、「JPX日経インデックス400」の構成銘柄、計算方法、その他「JPX日経インデックス400」の内容を変える権利および公表を停止する権利を有します。

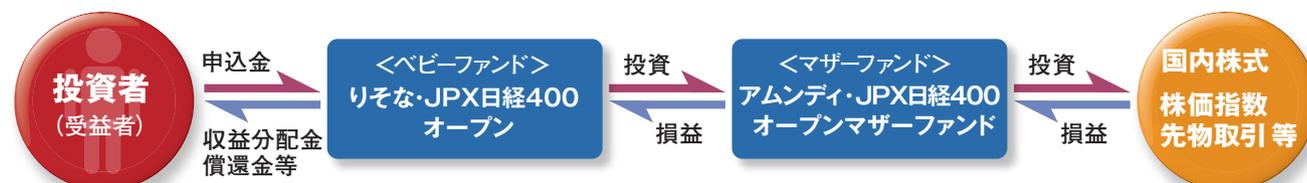
◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの仕組み

ファミリーファンド方式^{*}で運用を行います。

^{*}ファミリーファンド方式とは、複数のファンドを合同運用する仕組みで、投資者からご投資いただいた資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して実質的な運用を行います。

[イメージ図]



- マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。
- 運用の効率化をはかるため、株価指数先物取引等を活用することがあります。

ファンドの運用体制

◆ 投資戦略の決定および運用の実行

- CIO（最高運用責任者）に承認された運用計画に基づき、運用本部に所属するファンド・マネージャーが、ポートフォリオを構築します。

◆ 運用結果の評価

- 月次で開催するレビュー委員会において、運用評価の結果が運用関係者にフィードバックされます。
※上記は本書作成日現在のファンドの運用体制です。ファンドの運用体制は変更されることがあります。

主な投資制限

- 株式への実質投資割合には制限を設けません。
- 外貨建資産への投資は行いません。

分配方針

◆ 毎決算時（毎年11月19日。休業日の場合は翌営業日とします。）に、原則として次のとおり収益分配を行う方針です。第1期決算日は平成26年11月19日とします。

- 分配対象額の範囲
経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- 収益分配金額
分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。したがって、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- 留保益の運用方針
収益の分配にあてず投資信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

追加的記載事項

JPX日経インデックス400とは

JPX日経インデックス400は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される新しい株価指数です。

インデックス構成銘柄の選定プロセス(イメージ図)



出所:「JPX日経インデックス400算出要領」に基づき、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。上記は銘柄選定方法のすべてを網羅したものではありません。上記は作成時点のものであり、今後変更となる場合があります。

日本の主な株価指数について

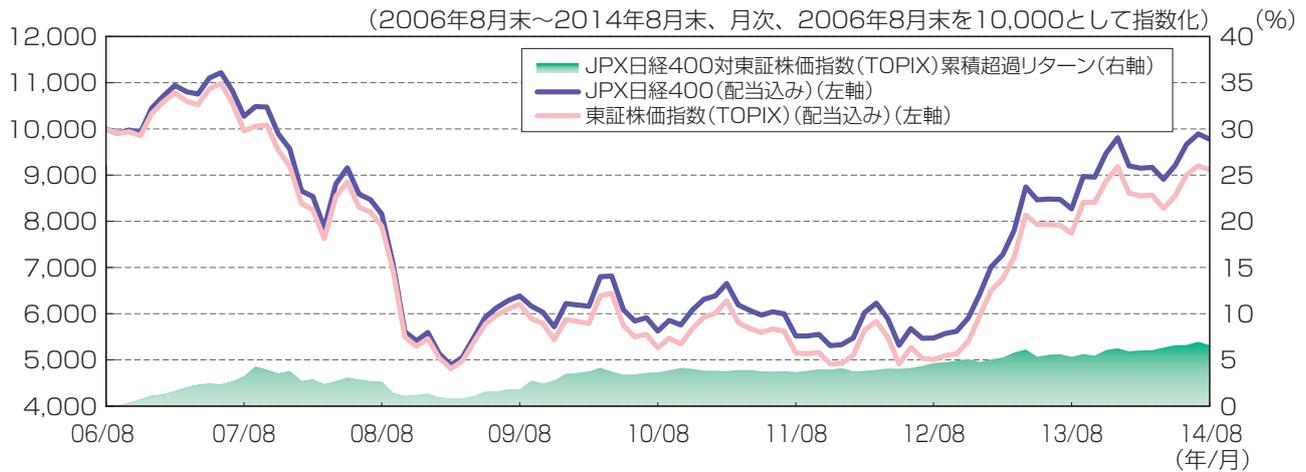
指数	構成銘柄	銘柄数	起算日、基準値	算出開始
JPX日経インデックス400	東証上場全銘柄のうちROE等の指標が選定基準を満たした銘柄	400	2013年8月30日 10,000	2014年1月6日
東証株価指数(TOPIX)	東証第一部上場の全銘柄	約1,700	1968年1月4日 100	1969年7月1日
日経平均株価(日経225)	東証第一部上場銘柄から選定された銘柄	225	—	1950年9月7日

出所:東京証券取引所および日本経済新聞社のデータに基づき、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

*上記は過去のデータ等であり、将来を示唆・保証するものではありません。また、ファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
*上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
*当社が信頼性が高いとみなす情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

追加的記載事項

●(ご参考)JPX日経インデックス400と東証株価指数(TOPIX)のパフォーマンス比較



	2006年*1	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年*2	全期間 (年率)
JPX日経400	4.5%	-8.4%	-41.6%	11.3%	1.5%	-15.5%	20.5%	52.7%	-0.3%	-0.3%
東証株価指数 (TOPIX)	3.4%	-11.1%	-40.6%	7.6%	1.0%	-17.0%	20.9%	54.4%	-0.7%	-1.1%

※1 2006年8月末と2006年12月末の変化率。 ※2 2013年12月末と2014年8月末の変化率。

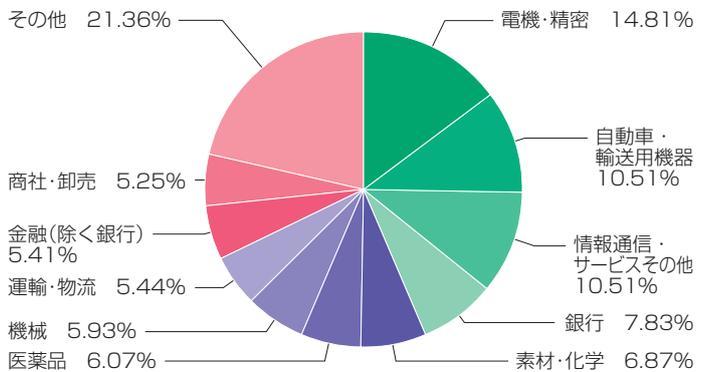
* 2013年8月30日までのパフォーマンスにおける遡求値計算の銘柄選定にあたっては、JPX日経インデックス400構成銘柄の選定プロセスにおける定性的な要素による加点および前年度採用銘柄の優先採用ルールを適用していません。

* 上記は過去のデータに基づくものであり、将来を示唆・保証するものではありません。また、ファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

●JPX日経400採用銘柄の市場区分分布 (2014年度)

市場第一部	388銘柄
市場第二部	1銘柄
マザーズ	1銘柄
JASDAQ	10銘柄

●JPX日経400 業種別比率 (2014年度)



* TOPIX-17シリーズの業種による区分に基づく時価総額比です。

* 四捨五入の関係で100%にならない場合があります。

ROE* (自己資本利益率)について

*Return On Equity(リターン・オン・エクイティ)の頭文字

自己資本(株主が出資した資金)に対してどれだけの収益を生み出したかを示す指標です。ROEの数値が高い企業は株主の出資分に対する収益が大きいため、株主にとっての価値が高い魅力的な投資先といえます。

<ご参考:3年ROE単純平均値(2014年度)>

$$\text{ROE (自己資本利益率)} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}} \times 100$$

JPX日経400	11.2%
東証株価指数(TOPIX)	6.8%

出所:東京証券取引所、ブルームバーグのデータに基づき、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

・東証株価指数(TOPIX)は株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株式会社東京証券取引所に帰属します。

*上記は過去のデータ等であり、将来を示唆・保証するものではありません。また、ファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

*上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

*当社が信頼性が高いとみなす情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として国内株式など値動きのある有価証券に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではありません。**ファンドの基準価額の下落により、**損失を被り投資元本を割込むことがあります。**ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

① 価格変動リスク

株式は、国内および国際的な政治・経済情勢等の影響を受け、価格が下落するリスクがあります。一般に株式市場が下落した場合には、その影響を受けファンドの基準価額が下落する要因となります。したがって、購入金額を下回り、損失を被ることがあります。

② 信用リスク

株式の発行会社が倒産した場合または発行会社の倒産が予想される場合もしくは財務状況の悪化等により社債等の利息または償還金の支払いが遅延または履行されないことが生じた場合または予想される場合には、株価が大幅に下落することがあります。こうした影響を受け、ファンドの基準価額が下落する要因となります。したがって、購入金額を下回り、損失を被ることがあります。

③ 流動性リスク

短期間で大量の換金があった場合または大口の換金を受けた場合、換金資金の手当てのために株式を市場で売却した結果、市場にインパクトを与えることがあります。その際、市況動向や流動性の状況によっては、基準価額が下落することがあります。こうした影響を受け、購入金額を下回り、損失を被ることがあります。

④ 有価証券先物取引等に伴うリスク

株価指数先物取引等については、買建てを行いその先物指数等が下落した場合や、売建てを行いその先物指数等が上昇した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となり、購入金額を下回り、損失を被ることがあります。

⑤ 価格乖離リスク

ファンドは、JPX日経インデックス400（配当込み）に連動する投資成果をめざして運用を行いますが、基準価額の動きがJPX日経インデックス400（配当込み）の動きと乖離する場合があります。

◆基準価額の変動要因（投資リスク）は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

○ ファンドの繰上償還

委託会社は、投資信託財産の純資産総額が10億円を下回った場合等には、信託を終了させることがあります。

○ 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

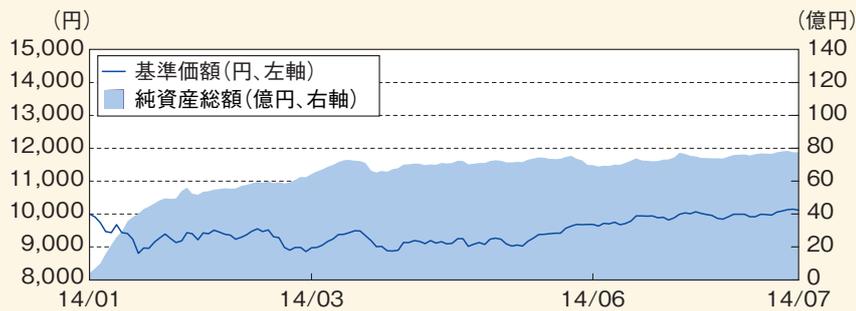
ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

リスクの管理体制

ファンドのリスク管理として、運用リスク全般の状況をモニタリングするとともに、運用パフォーマンスの分析および評価を行い、リスク委員会に報告します。このほか、委託会社は関連法規、諸規則および運用ガイドライン等の遵守状況をモニターしリスク委員会に報告するほか、重大なコンプライアンス事案については、コンプライアンス委員会で審議を行い、必要な方策を講じており、グループの独立した監査部門が随時監査を行います。

◆上記は本書作成日現在のリスク管理体制です。リスク管理体制は変更されることがあります。

基準価額・純資産の推移



* 基準価額の計算において信託報酬は控除しています。

基準価額	10,075円	純資産総額	77.5億円
------	---------	-------	--------

分配の推移

該当事項はありません。

期間別騰落率

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.27	10.81	7.06	-	-	0.75
ベンチマーク	2.35	11.01	7.54	-	-	1.18

* 騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。ファンドの騰落率であり、実際の投資家利回りとは異なります。

主要な資産の状況

[ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、組入上位10銘柄、組入上位10業種はマザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。]

◆資産配分

資産	比率(%)
国内株式	98.96
現金・他	1.04
合計	100.00

* 比率は純資産総額に対する実質投資割合です。
* 四捨五入の影響で100.00%とならない場合があります。

◆その他の資産

資産	比率(%)
先物	1.00

* 比率は純資産総額に対する実質投資割合です。

◆組入上位10銘柄 (マザーファンド)

	銘柄名	市場	業種	比率(%)
1	ソフトバンク	東京一部	情報・通信業	1.70
2	日本電信電話	東京一部	情報・通信業	1.59
3	ファナック	東京一部	電気機器	1.53
4	日立製作所	東京一部	電気機器	1.49
5	KDDI	東京一部	情報・通信業	1.42
6	トヨタ自動車	東京一部	輸送用機器	1.40
7	セブン&アイ・ホールディングス	東京一部	小売業	1.38
8	三井不動産	東京一部	不動産業	1.38
9	本田技研工業	東京一部	輸送用機器	1.35
10	武田薬品工業	東京一部	医薬品	1.35

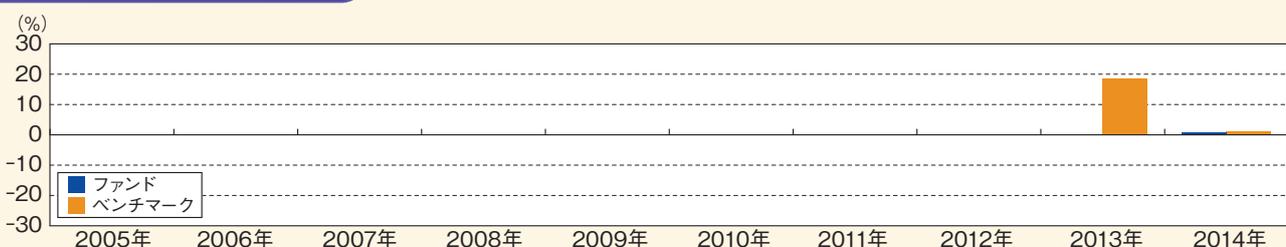
* 比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額比です。

◆組入上位10業種 (マザーファンド)

	業種	比率(%)
1	電気機器	13.25
2	輸送用機器	8.90
3	情報・通信業	7.74
4	銀行業	7.49
5	化学	6.31
6	機械	6.14
7	医薬品	5.48
8	卸売業	5.26
9	陸運業	5.14
10	小売業	4.81

* 比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額比です。

年間収益率の推移



* 年間収益率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

* JPX日経インデックス400(配当込み)をベンチマークとします。

* 2013年はベンチマークの起算日(8月30日)から年末まで、2014年はベンチマークについては年初から7月31日まで、ファンドについては設定日(1月22日)から7月31日までの騰落率を表示しています。

※上記の運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
 ※ベンチマークの情報はあくまで参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。
 ※運用実績等については、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。 詳しくは販売会社にお問合せください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。 詳しくは販売会社にお問合せください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時 [*] までに購入・換金のお申込みができます。 販売会社により異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
購入の申込期間	平成26年1月22日から平成27年2月19日までとします。 申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
換金制限	換金の申込総額が多額な場合、投資信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、諸事情により金融商品取引所等が閉鎖された場合等一定の場合に換金の制限がかかる場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込受付を取消すことができます。
信託期間	平成35年11月20日までとします。(設定日:平成26年1月22日)
繰上償還	委託会社は、投資信託財産の純資産総額が10億円を下回ることとなった場合、またはこの投資信託契約を解約することが投資者のため有利であると認めるとき、JPX日経インデックス400株価指数が改廃されたとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を繰上げて信託を終了させることができます。
決算日	年1回決算、原則毎年11月19日です。休業日の場合は翌営業日とします。 第1期決算日は、平成26年11月19日です。
収益分配	年1回。毎決算時に収益配分方針に基づいて分配を行います。 収益分配金の「再投資」を選択した場合、税引後無手数料で再投資されます。
信託金の限度額	3,000億円です。
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年11月の決算時および償還時に運用報告書（交付運用報告書を作成している場合は交付運用報告書）を作成し、知れている受益者に販売会社よりお届けいたします。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除および益金不算入制度が適用される場合があります。

※ 上記所定の時間までにお申込みが行われ、かつ、それにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とさせていただきます。これを過ぎてからのお申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

ファンドの費用・税金

ファンドの費用

<投資者が直接的に負担する費用>

購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に、販売会社が独自に定める料率を乗じて得た金額とします。本書作成日現在の料率上限は 1.08%(税抜1.00%) です。詳しくは販売会社にお問合せください。
信託財産留保額	ありません。

<投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用>

運用管理費用 (信託報酬)	信託報酬の総額は、投資信託財産の純資産総額に対し 年率0.648%(税抜0.60%) を乗じて得た金額とし、ファンドの計算期間を通じて毎日、費用計上されます。 (信託報酬の配分) (年率)		
	委託会社	販売会社	受託会社
	0.27% (税抜)	0.30% (税抜)	0.03% (税抜)
その他の費用・手数料	(支払方法) 毎計算期間の最初の6カ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに、投資信託財産中から支弁します。 ◆上記の運用管理費用(信託報酬)は、本書作成日現在のものです。		
	投資信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用(監査費用、特定資産の価格等の調査に要する諸費用、法律顧問・税務顧問への報酬、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用、郵送費用、公告費用、格付費用、受益権の管理事務に関連する費用等およびこれらの諸費用にかかる消費税等に相当する金額を含みます。)および受託会社の立替えた立替金の利息は、投資者の負担とし、投資信託財産中から支弁することができます。 また、有価証券売買時の売買委託手数料および組入資産の保管費用などの諸費用がかかります。 ※その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。		

◆ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

税金

- ・税金は表に記載の時期に適用されます。
- ・以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

- ◆上記税率は平成26年4月現在の内容に基づいて記載しています。
- ◆少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ◆法人の場合は上記とは異なります。
- ◆税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

MEMO

(当ページは目論見書の内容ではありません。)

MEMO

(当ページは目論見書の内容ではありません。)

